リサイクル・環境

健康維持とCO_2削減の啓発活動

秋北バスがバス&ウォーク事業

観光モデルコース設定、バス停に削減値掲示

大館市が全面支援

小学校で環境出張授業も

秋北バス（太田吉信社長、秋田県大館市）は、路線バスのバス停の一定区間を歩くことによる健康維持と地球環境貢献の啓発活動を目的とする「バス&ウォーク」事業を開始した。大館市内の観光スポットを路線バスと徒歩で巡るモデルコースを設定、徒歩による消費カロリー数や二酸化炭素（CO_2）削減数値を算出してバス停やリーフレットでアピールする。同事業では、市内の小学校を対象に環境に対する意識を高める出前授業も行う。大館市も全面的にバックアップしており、路線バスを通じた地域の活性化につなげる。

市内循環バス「ハチ公号」の名前は、大館市に忠犬ハチ公の生家があることに由来する

同事業は、自動車アフターマーケット高度化コンソーシアム（代表幹事＝早稲田環境研究所・早稲田大学環境総合研究センター）のバス&ウォーク実行委員会が企画してスタートした。秋北バスは同コンソーシアムの会員企業で、同委員会は大館市と大館北秋田医師会が協賛している。

秋北バスのバス&ウォークでは、大館市内のバス停750カ所に、次のバス停まで歩いて移動した際の消費カロリーと、自動車とバスで移動した際のCO_2排出量を表示して、バス利用者に分かりやすく伝える。また、歴史的建造物や温泉などの観光地を巡る10のモデルコースを設けた。徒歩による移動は約3～7㌔㍍に設定、幅広い年齢層が参加しやすいようにした。バスの待ち時間の間に次のバス停まで徒歩で移動するケースや、モデルコースでは、行きは徒歩、帰りはバスを利用するケースを想定している。日々の運動不足の解消や自家用車ではなく路線バスを利用した環境貢献について大館市民の理解促進を図り、積極的な参加を呼びかけている。

また、バス&ウォーク事業のもう一つの柱が、大館市内の小学校を対象とした出前授業の開催。早稲田環境研究所（中嶋崇史代表）や地球健康クラブ（有賀博之代表）などが企画・製作したボードゲーム「エコライフゲーム」で、児童に楽しみながら日常生活の環境負荷に対する意識を高めてもらう。テレビゲームに慣れ親しんでいる児童たちにとってボードゲームは新鮮に映るようで、児童たちも積極的に参加しているという。出前授業を通じて、子供同士や親子でバスに乗るきっかけづくりにもつなげていく。

地方のバス路線は、利用者の減少により、路線を廃止するケースがある。しかし、移動の手段として路線バスを必要とする高齢者や小中学生がいることから、同コンソーシアムでは、新規のバス路線開設もバス&ウォーク事業として展開する。秋北バスでは、11月16～30日まで、市内循環バスの試験運行を行い、新たな路線バスとしてのバス運行について検討を開始している。こうした取り組みが広く市民に伝わることで、バス利用者の拡大に結び付ける考えだ。

秋北バスでは、車での移動は必要との立場は変えずに、行動パターンに応じて路線バスによる移動を通じた環境配慮といったバス&ウォークの有効性をアピールしている。現在は、大館市民に向けた取り組みとするが、観光客でもバス&ウォークに参加可能なため、新たな観光誘致としても期待できる。バス利用者の拡大やバス路線の維持、新規路線の開設につながる事業として、広く関心を集めそうだ。

小学生を対象に行う出前授業のエコライフゲームでは、楽しみながら環境問題を学んでいく

バス停には、早稲田環境研究所が算出した消費カロリー数と二酸化炭素（CO_2）排出量を掲示

秋田県大館市は、行政と企業が一体となり路線バスの活性化に取り組んでいる。全国で初の試みとなる『バス&ウォーク』は、ウォーキングの効果による健康づくりの促進と地球環境問題について考える機会と位置付ける。同時に路線バスの利用拡大にもつながるものとして、広く市民の参加を呼び掛けている。バス&ウォークについての考えやそれぞれの今後の取り組みなどについて、大館市の小畑元（はじめ）市長と秋北バスの太田吉信社長に聞いた。（秋田　憲作）

秋田県大館市　小畑　元市長

移動手段提供は義務

コミュニティーつなぐ役割

―大館市として市民の移動と路線バスの位置付けは

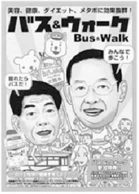
「市民は移動で自動車を利用するケースが多いが、高齢者のなかには車を運転できない方がいる。大館市の人口8万人のうち、高齢者は2万5千人、小中学生が5500人、障がい者手帳を所持する人が5500人という状況で、バスがないと暮らしていけない。そのため、バスは貴重なインフラで市民に移動の自由を与えるものとなっている。路線バスという『マストラ（マストランスポーテーション）』は必要で、バスの便も乗降客も一定の数を確保しなければならない。我々にとっても市民に移動の自由な手段を提供するのが行政の義務と考えている」

―地域活性化と路線バスの関係をどう考えるか

「2005年に比内町と田代町と合併したが、旧大館市内への買い物や通院にバスを利用すると往復で2千円近くかかる地区もある。何とかしたいという思いから、100円で乗れる秋北バスの市内循環バス『ハチ公号』の運行につながった。また、病院と診療所を連携する『病診連携』を進めているが、ハチ公号は、市立総合病院を含めて市内のほとんどの病院をカバーしている。また、バスは地域コミュニティーをつなぐ役割で、バスの車内でもコミュニティーができる。市としての存在意義を表すという観点からも、皆が路線バスで自由に乗り降りできて、生活のサイクルが上手に動くようになれば、地域の共生にもつながる」

―バス&ウォークに対する期待は

「提案を受けて、マストラとして大変意義のあることと思った。私も毎日4～5㌔㍍歩いているし、体調に良いことを実感している。歩くことは物事も考えられるし、二酸化炭素（CO_2）排出削減にもなる。バス&ウォークでバスに乗ることが当たり前になればよい。地域社会にとっても効果のある政策として一緒に取り組んでいく」


美容、健康、ダイエット、メタボに効果抜群！
バス&ウォーク
Bus&Walk
みんなで歩こう！
疲れたらバスだ！

リーフレットのデザインはデジタルクリエイターのヒラヤマユウジさんが担当。大館市を挙げた活動が分かる

秋北バス　太田　吉信社長

利用客開拓余地ある

地域社会へ貢献アピール

―バス&ウォークがスタートした

「捉え方は二つある。一つは社内の意識改善で、バス会社は路線があって成り立つ。一方で、人口が減って乗車率も減少しているのに対策を取らずに、路線を廃止して打開策を打ち出すことでは事業が衰退、縮小してしまう。しかし、バスを利用していただくよう、お客さまを開拓する余地はある。免許を持っている人や普段バスを利用しない人にもバスに乗る仕組みを作ることがバス会社の使命ということに社員の意識を高めていく」

―もう一つとは

「一企業だけではなく、行政と市民、企業・団体の三者一体で取り組む価値があるのが『バス&ウォーク』で、我々が地域に貢献できるということもアピールできる。日本で最初に大館市で取り組むことが地域にとっても大きな価値がある」

―小学生を対象に出前授業を始めた

「大館市教育委員会教育研究所などと協力して行っている。子供の時にいかに環境を学んで理解してもらうかが大切で、エコライフゲームというツールが非常に役立っている。社員と地元の大学のボランティアの方々など、一緒に教育活動を広げていく」

―路線バスの燃費改善と事故削減活動にも取り組んでいる

「路線バス10台にドライブレコーダーを装着して、40人の乗務員の運転状況をデータ化している。私はバスで通勤しているが、乗務員が燃費削減を意識していることを実感している。実証実験を始めてから燃費は向上した。無事故と省燃費に向けた活動は最重要課題として、今後も積極的に進める」

―バス路線の維持と拡大に向けては

「11月は新路線の実証実験も行った。バス路線というのは、地域の方々に使っていただくことに意義があり、最大の使命は必要なところに新しい路線を作ることだ。新しい取り組みにより、バスがこれから先も市民にとって必要な生活の足ということを広く伝えていきたい」